

問1 稲作が普及して富や権力に差が生まれた弥生時代、地域をまとめる存在として現れたまとまりを何という？

1. クニ 2. 郡 3. 大和政権 4. 国府

問2 古代中国の記録などを通じて、当時の日本（倭）の状況を知ることができる資料のうち、出来事や制度を記録した書物を何という？

1. 法典 2. 地理書 3. 歴史書 4. 随筆

問3 金印が作られた紀元1世紀頃、地中海を中心に繁栄していた当時の巨大な帝国を何という？

1. クシャーナ朝 2. ローマ帝国 3. 大秦国 4. パルティア

問4 弥生時代に大陸から金属器とともに伝わり、それまでの採集中心の生活から定住型の社会へ変化させる大きな要因となった技術を何という？

1. 漁労 2. 採集 3. 狩猟 4. 稲作

問5 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？

1. 菜畑遺跡 2. 唐古・鍵遺跡 3. 吉野ヶ里遺跡 4. 登呂遺跡

問6 奴国からの使節の来訪や金印の授与についての記述がある、中国の歴史書を何という？

1. 古事記 2. 後漢書 3. 魏志倭人伝 4. 日本書紀

問7 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 魏志倭人伝 2. 日本書紀 3. 風土記 4. 古事記

問8 弥生時代に導入された金属器のうち、硬度が高く、刃先などの実用的な道具として生産力の向上に貢献したものを何という？

1. 木器 2. 青銅器 3. 石器 4. 鉄器

問9 『後漢書』東夷伝などの歴史書において、弥生時代の日本列島に多数存在していたとされる政治的なまとまりを何という？

1. 倭国 2. 邪馬台国 3. 小国 4. 奴国

問10 九州地方で主に副葬品として使われていた、銅剣などとともに見つかる青銅の武器を何という？

1. 銅矛 2. 銅鐸 3. 銅鏡 4. 銅剣

問11 57年に奴国の使者が訪れ、金印を授けたとされる後漢の皇帝を何という？

1. 桓靈 2. 光武帝 3. 文帝 4. 献帝

問12 縄文土器と比べて薄く作られ、煮炊きに適していたのはどのような温度で焼かれたから？

1. 乾燥 2. 多湿 3. 低湿 4. 高温

問13 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？

1. 銅剣 2. 銅鐸 3. 鏡 4. 銅矛

問14 弥生時代の日本が、中国の王朝へ進んだ文化や権威を求めて使者を送り、贈り物や献上品を送る外交形式を何という？

1. 遣唐使 2. 大化の改新 3. 朝貢 4. 冊封

問15 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？

1. 漢鏡 2. 画文帯神獸鏡 3. 方格規矩鏡 4. 三角縁神獸鏡

答え合わせ・解説

問1	答え 1 クニ	この争いに勝った有力者が周辺の集落を統合し、「クニ」と呼ばれる政治的なまとまりを作りました。クニには王が現れ、指導者として集落を管理しました。中国の歴史書『漢書』や『後漢書』には、日本に多くのクニが存在していたことが記されています。
問2	答え 3 歴史書	『後漢書』や『魏志倭人伝（三国志）』などが代表的な歴史書です。これらの書物には、日本（倭）の地理や、百余りの小国が乱立していた様子、金印の授与、卑弥呼が統治した邪馬台国の様子などが詳細に記述されています。
問3	答え 2 ローマ帝国	ローマ帝国は、地中海沿岸の全域を支配下に置き、高度な法整備や道路網、水道技術などを有していました。同時期のアジアの中国やインドとも間接的な交易関係があり、広い範囲で交流が行われていました。
問4	答え 4 稲作	稲作が定着したことで、人々は安定した食料を得られるようになり、収穫の時期に合わせて同じ場所に住み続ける定住生活が始まりました。木製の農具や鉄製の道具が使われるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。
問5	答え 3 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問6	答え 2 後漢書	『後漢書』は、後漢時代の出来事をまとめた中国の歴史書です。この中にある「東夷伝」という章には、当時の日本（倭）の様子が記されており、57年に奴国の王の使いが後漢へ向かい、光武帝から金印を授けられたという記述が含まれています。
問7	答え 1 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問8	答え 4 鉄器	鉄器は主に農具の刃先や、武器としての剣や矛などに加工されました。特に鍬や鋤などの農具が鉄製になったことで、森林の開墾や水田の整備が非常に効率化され、米の収穫量が飛躍的に増加しました。
問9	答え 3 小国	当時の日本は「百余りの小国」に分かれていたと『後漢書』などに記されています。これらの小国は、豊かな水田地帯を支配する有力者（首長）を中心に組織され、ときには他の集落や小国と水や土地をめぐる激しく争いました。
問10	答え 1 銅矛	銅矛は、九州地方で出土することが多い青銅製の武器型祭器です。これらは実際に戦いで使う武器というよりは、葬儀や祭礼の場で神を祀ったり、亡くなった首長の権力を誇示したりするための道具として副葬されました。
問11	答え 2 光武帝	光武帝は、57年に九州の奴国から訪れた使者に対し、朝貢の返礼として金印を授けました。これは当時の中国が、周辺の地域の小国を支配下（冊封体制）に置こうとした外交政策の一環でした。
問12	答え 4 高温	縄文土器と異なり、弥生土器は密閉された窯などを用いて高温で焼く技術によって製造されました。高温で焼くことで強度が上がり、煮炊きに適した薄い土器を大量に作ることができました。これにより食生活や保存方法が大きく向上しました。
問13	答え 2 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問14	答え 3 朝貢	朝貢は、中国の皇帝に対して周辺諸国の支配者が使者を派遣し、贈り物（貢ぎ物）を差し出す外交儀礼です。皇帝はその返礼として、称号や印などを与え、支配者としての正当性を認めました。これにより、日本側の首長は国内の勢力争いで優位に立つことができました。
問15	答え 1 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。